

令和3年度 緩和ケア研修会

令和3年1月8日(土)に、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校において、鹿児島医療センター緩和ケア研修会を開催致しました。

昨年秋ごろはコロナウイルス感染がやや落ち着いたこともあり、院外からの受講生も募集させていただき、医師19名、多職種(看護師、理学療法士)9名が参加されました。現在、緩和ケア研修会はe-learningと集合研修の2つから成り立っていますが、参加者全てのe-learning修了のもと、1日間の集合研修が行われる形となっています。

開催日当日、朝は冷え込むものの天候に恵まれたこともあり、日中は例年より暖かく、過ごしやすい中で研修会を行うことができました。例年と同様、講師としていまきいれ総合病院緩和医療科の小玉哲史先生をお迎えし、コミュニケーションのセッションを担当していただきました。当院からは医師8名、看護師8名、薬剤師1名、医療ソーシャルワーカー1名の御協力を頂き、円滑に進行することができました。内容はe-learningの振り返りに始まり、コミュニケーションに関するロールプレイ、グループワークでは症例を通してがん疼痛の事例検討、さらにその後の療養場所の選択と地域連携の検討など、受講生の皆さんにとっては充実した内容であったと思います。e-learning修了から時間が経過していることから、内容を再確認するための振り返りのセッションを長めに設定致しました。

昨年末よりオミクロン株が感染拡大し、感染対策の重要性が増しています。当研修会では、講義中は密を避ける配置を心掛け、換気やマスクの徹底を行い、受講生もロールプレイ及びグループワーク時はシェード付きマスクを装着することとしました。マスクは声が聞こえにくい問題もありますが、感染のリスクを考えると仕方がない面があります。そんな中、受講生の皆さんは一生懸命にロールプレイ、ワークに取り組まれていました。

この研修会を通じて、参加者、協力者ともに多くの学びを得て頂いたこと、緩和ケア、がん診療に関わる多職種の方々の交流が図れたことは、非常に収穫であったと思います。

御協力頂いた全ての皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。研修会は今後もさらに内容を充実させ開催していく予定ですので、皆様の御参加、御協力を宜しくお願いいたします。

(文責：研修会企画責任者 原口 浩一)



誓いの式



令和3年11月19日に誓いの式がありました。この式典に向けて、ナイチンゲールの「看護覚え書」を再読し、私たちが目指す看護師像を話し合い、30回生の誓いの詞を作成しました。

ナイチンゲール像から灯をいただき、クラス全体で誓いの詞を宣誓することで、これからの学習をより頑張ろうという思いをさらに強くしました。これから、私たちは基礎看護学実習I(日常生活の援助)があります。30回生全員が同じ志を持って誓ったことを胸にとどめながら、患者様のニードに沿った援助を行っていきたいと思います。

(誓いの式実行委員長 緒方 舞衣)

30回生 誓いの詞

- 一、私たちは、謙虚な心ですべての人への感謝を忘れず、患者に信頼される看護師になることを誓います。
- 一、私たちは、優しさと強い信念を持ち、患者のよき理解者となることを誓います。
- 一、私たちは、常に向上心を持ち、確かな知識と技術を身につけ、日々努力していくことを誓います。
- 一、私たちは、チームの一員としての自覚を持ち、協調性と豊かな人間性を育み、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨していくことを誓います。



職場紹介

【東8階病棟】

東8階病棟は、令和3年度より循環器内科病棟に再編成されました。循環器の主な疾患は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患やうっ血性心不全などであり、治療・検査として、心臓カテーテル検査やバルーン拡張術、薬物療法、大動脈弁狭窄症に対しTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）を実施しています。

看護師は、心電図モニターやフィジカルアセスメントを用いた観察を行い、異常を早期にキャッチし、的確で迅速な対応ができるよう努めています。特に心不全の患者さまは、高齢化社会の進行と共に増加しており、QOLの低下や入退院を繰り返す傾向にあります。現在の状態を維持するためにも、これ以上心不全を悪化させないことが重要であり、自宅でのセルフケアが必要不可欠となります。そこで、私たち看護師は、入院時より退院を見据えた支援を行い患者さまが安心して入院生活を送ることができるよう努めています。医師、栄養士、メディカルサポートセンターのスタッフなど多職種を交えた退院支援カンファレンスを毎日実施しており、自宅へ帰られても安心して生活が送れるよう患者さま個人に合わせたサポートをしています。セルフケアに関して、パンフレットを用いて運動療法、減塩食、禁煙、節酒、体重測定の必要性など具体的に説明し、自宅での生活に取り入れていただくよう関わっています。

最後に、院内でも一番高い位置にある東8階病棟は、病室の窓から眺める錦江湾と桜島の雄大な景色に癒される環境です。雄大な景色に劣らず様々な循環器内科疾患をもった患者さまに対応できる専門性の高い医療、看護を実践すると共に、心安らぐ温かいケアの提供を目指します。

（文責：看護師長 奥野 夏美）



新任紹介



婦人科
吉永 浩介

婦人科の吉永と申します。ご縁あって1月より当地で婦人科に勤務させていただいております。婦人科は病院の各診療科の先生方をお願いをいたすばかりですが、みなさまのお邪魔にならないように、また病院経営のためにも鹿児島県の婦人科症例を集積できますように紹介いただく県内の婦人科医療機関との連携をスムーズに行い、手術患者さまには何事もなかったかのようにお帰りいただけるように努めて参ります。



皮膚腫瘍科・皮膚科
西原 克彦

2022年1月より愛媛大学皮膚科より皮膚腫瘍科に赴任いたしました、西原克彦です。このたび皮膚外科・皮膚悪性腫瘍について勉強できればと思い、鹿児島医療センターの赴任を希望させていただきました。慣れないうちにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。また、生まれも育ちも愛媛で鹿児島に住むのは初めてなので、鹿児島のこといろいろ教えてください。宜しくお願い致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 箇田・西田・中本・篠崎・迫田・椎原・出口・石原・吉留・馬場・櫻木・田辺・池野・宮崎

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

